

1 学校教育目標	
教育目標	ふるさと「むつみ」に誇りをもち、心豊かにたくましく生きる生徒の育成
中・長期目標	生きる力を育み、地域とともに歩む開かれた、創意と活力に満ちた特色ある学校づくり

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
①計画的な授業研究(指導案事前検討会・事後ワークショップ型研修)の実施と外部講師招聘、ミニ校内研修(復伝)等の校内研修が充実してきた。 ②授業改善への取組(わかるできる授業づくりや互見授業週間の設定等)が自己評価及び学校関係者評価とも高い到達度・評価であった。 ③積極的な学校の情報発信(学校ホームページ更新・学校メール通信・学校だより等)は、好評であり今後も継続して実施したい。 ④小中連携では、3部会(学習指導・生徒児童理解・キャリア教育)を設定し、小中学校の教職員が熟識し、むつみ小中9年間で一貫して指導する具体的な内容をまとめることが課題である。 ⑤来年度、むつみ中学校区学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を立ち上げるための具体的方策を検討する必要がある。	

3 本年度重点を置いてめざす取組・特色、取り組むべき課題	
①授業改善を含めた授業力の向上の為に、互見授業を充実させ外部講師を招聘したワークショップ型研修・ミニ研修を継続実施していく。 ②各教育活動において自分の個性を理解し、得意なことはさらに伸ばし、不得意なことにもチャレンジする心情を育成させる。 ③小中連携指導内容等を充実させ、小中9年間の「学びの継続性」「生徒指導の継続性」「児童生徒理解の継続性」を意識した小中連携教育を推進し、来年度設立予定であるむつみ中学校区学校運営協議会(コミュニティ・スクール)につなげたい。 ④学校行事や授業交流をとおして、むつまじい地域連携体験学習「里山プロジェクト学習」の構築と検証を実施する。(特色ある教育活動推進拠点校:コラスクール) ⑤地域貢献を意識した生徒会を中心とした積極的な交流やボランティア活動を実施し、元気なあいさつを含めた思いやりの心を大切に育む教育を推進したい。	

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
基礎学力の定着と向上	外部講師や学力向上推進教員を招聘し、ワークショップ型研修を実施することで、授業力のさらなる向上をめざす。	○外部講師や学力向上推進教員を招聘し、校内授業研究(年5回以上)を充実させる。 ○ワークショップ型研修により授業力向上(わかる・できる喜びを求めて)を推進する。(年7回以上) ○気軽に参観できる互見授業になるよう工夫する。 ○地域・保護者へ積極的な授業公開を実施する。	教職員による相互評価および保護者・生徒・地域住民のアンケートで 4: 90%以上の肯定率 3: 70%以上の肯定率 2: 50%以上の肯定率 1: 50%未満の肯定率	4	外部講師や学力向上推進教員、市教委指導主事等を招聘した授業研究を7回実施し、ワークショップ型研修で授業検討会を行った。学力定着状況確認問題の分析を職員会議で行うなど学力の定着に向けて努力しており、校内研修体制は充実してきている。評価:「校内研修の充実」教員100%(3.7)、「授業公開」地域100%(3.2)であった。「わかる授業」については保護者90%(3.1)生徒93%(3.0)であり、1学期と比較するとポイントが少し下がっている。授業内容が難しくなってきたこともあるが、教員同士の互見授業を継続して、今まで以上に「わかる授業づくり」を追求していく。	教職員は、生徒の学力向上を意識して熱心に研修を積み重ねている。外部講師の活用や互見授業週間の設定、積極的な授業公開など大変評価できる。現状に満足せずに、今後もわかる授業をめざして、教職員が一丸となり努力を続けてほしい。	A
	家庭学習のさらなる習慣化につながる宿題や課題の工夫及び家庭への働きかけを図る。	○保護者に学校の学力対策の具体的な取組を積極的に知らせ、家庭学習時間の確保をお願いする。 ○家庭学習の質の向上を図るため、各教科で自主学習につながる個別指導や支援を実施する。 ○基礎学力テスト(5教科)を計画的に実施し、補充学習を充実させる。	教職員による相互評価および保護者・生徒のアンケートで 4: 90%以上の肯定率 3: 70%以上の肯定率 2: 50%以上の肯定率 1: 50%未満の肯定率	3	保護者の家庭学習習慣化についての働きかけは、評価:保護者H23:68%→H24:79%→H25:88%(3.2)となっており、家庭の意識は毎年上がりつつある。「生徒の家庭で意欲的な取組」については、保護者65%(2.7)であり、子どもにはもっと意欲的に取り組んで欲しいと考えている。 生徒は、「自主学習ノート等の提出」93%(3.0)であり、ある程度きちんと提出できていると考えているが、提出がおろそかになっている生徒も見られる。基礎学力テストの取組については、教員100%(3.6)保護者100%(3.7)と高評価であり、今後も学力向上の取組を継続し個別指導を充実させる。	今後とも小規模校のメリットを活かし、個別指導を重視してほしい。親としては、声かけはできるが教えるとなると難しい。また、塾への依存が少ない分、保護者は学校の取組に期待している。課題や宿題等の量や質を考慮して、家庭学習の質の向上をめざしてほしい。	A
としたキャリア教育活動を基盤	授業や学校行事にキャリア教育の視点をもたせた、地域体験学習(里山プロジェクト学習)を推進する。	○キャリア教育の視点に立った、地域との連携による学習活動を展開させる。 ○人前で自分の考えを発表する場面の設定や、学習形態の工夫をすることで、コミュニケーション能力の向上を図る。 ○生徒に、時と場、相手に応じた言動を意識させる。	教職員による相互評価および保護者・生徒、地域住民のアンケートで 4: 90%以上の肯定率 3: 70%以上の肯定率 2: 50%以上の肯定率 1: 50%未満の肯定率	4	地域体験学習(里山プロジェクト学習)の取組が評価されている。地域連携体験学習については、地域96%(3.7)、保護者96%(3.5)であり、コミュニケーション能力育成については、教員100%(3.8)、保護者92%(3.3)と高い評価である。ただし、自分の思いを伝えたり、自己表現したりすることは、生徒の評価は、89%(3.0)であるが教員からの視点では依然として課題が見られる。今後は、授業や学校教育全般を通してコミュニケーション能力の向上を図る取組を継続していきたい。特に、授業形態の工夫や表現活動の場の設定に心がけたい。	キャリア教育と地域体験学習を関連づけて実施しており生徒の将来を意識させる取組を今後も継続してほしい。森林の教室などの積極的な取組がTV等で放映され好評である。コミュニケーション能力の育成は、学校だけでなく各家庭や地域行事での会話を増やすことも必要であり、PTAの取組として保護者に呼びかけるとよい。	B
小中連携・コミュニティスクール	学校行事や授業交流を通して、「むつまじい小・中連携教育」を推進する。	○出前授業、学力向上支援、行事等での積極的な交流・指導・支援を行う。 ○むつみ保・小・中連携指導項目を意識した支援を図る。 ○中1ギャップの解消に向けた取組を継続実施する。	教職員による相互評価および保護者・生徒・地域住民のアンケートで 4: 90%以上の肯定率 3: 70%以上の肯定率 2: 50%以上の肯定率 1: 50%未満の肯定率	3	全教員で出前授業や算数パワーアップ等で小学校の授業に参加し、研究授業や行事を参観するなど、小中連携に努めた。評価は、教員89%(3.3)である。また、運動会や百人一首大会では、児童と生徒が協力して活動できるよう、教員間で共通理解をして進めることができた。保護者と地域の評価は、88%(3.2)と91%(3.3)である。また、児童・生徒の交流の場が少なく感じたためか、生徒評価が3.0とやや低くなっている。一緒に行う活動や行事では、児童・生徒に企画から関わらせ達成感をもたせたい。中1ギャップ解消に向けた取組も小学校と協議し更に充実させていきたい。	むつみ地域では、1小学校1中学校であり、児童生徒の交流や教員同士の交流がもっとあるとよい。小中の違いはあるが来年度よりコミュニティ・スクールとなるので、9年間の共通実践を通して、たくまじい「むつみっ子」を育成してほしい。	B
	地域との交流を通して、地域貢献ができる生徒の育成を図る	○ふるさと学習で、地域貢献を意識した活動を行い、発表する。 ○生徒会を中心とした交流活動やボランティア活動を毎学期実施する。	教職員による相互評価および保護者・生徒・小学校教職員のアンケートで 4: 90%以上の肯定率 3: 70%以上の肯定率 2: 50%以上の肯定率 1: 50%未満の肯定率	4	ふるさと学習では、地域に出かけて調査したり、交流をもつなど、地域貢献に関わる活動ができた。保護者100%(3.5)教員89%(3.6)地域96%(3.3)と高評価となっている。生徒会を中心として、道路のゴミ拾いや施設での手伝い、エコキャップ運動、やまびこキャンペーンなどのボランティア活動は計画的に実施できた。評価は、保護者88%(3.2)生徒96%(3.0)となっている。年間を通して、地域と関わる活動が多く、充実したものになっている。オープンスクールでの来校者を増やしたい。	地域貢献を意識した活動は大変好評であり、来年度以降も継続して実施してほしい。生徒が主体的に取り組むように活動の企画段階から関わらせるとよい。中学校に行ってみようという声もある。地域の福寿会等と連携するとよい。	A
業務改善	学校の組織等	○学校運営プロジェクト会議(3部会)を設立し、具体的方策や評価アンケート項目を検討し検証することで各自の学校運営参画意識を向上させる。	教職員による相互評価で 4: 90%以上の肯定率 3: 70%以上の肯定率 2: 50%以上の肯定率 1: 50%未満の肯定率	4	学校運営プロジェクト会議を計画的に年7回開催した。全教員で部会と全体会で具体的方策を検討し、各種取組を実施した。学校評価と関連づけて取組結果を検証した。全教職員が具体的にに関わることで、各自の学校運営参画意識が高まった。		
	日常的な業務	○職員会議時間の短縮(PCを活用した会議)と校務の効率化・情報共有化(職員室掲示板活用、サーバーへの資料保存)及び情報発信(HP、メール通信)に努める。	教職員による相互評価で 4: 90%以上の肯定率 3: 70%以上の肯定率 2: 50%以上の肯定率 1: 50%未満の肯定率	4	PC職員室掲示板を設置し、各種情報を各自のPCから簡単に確認できるようにし、情報の共有化に努めた。ホームページやメール通信で情報発信にも力を入れた。評価は地域と保護者はともに100%(3.7)であった。昨年同様、PC職員会議により会議時間を短縮することで部活動等で生徒にふれあう時間を確保できた。		
	ICT活用等による校務の効率化	○時間外勤務状況について記録をとることにより適切な回復措置と勤務の適正化を図る。また、年休等を取りやすい雰囲気づくりに努める。	教職員による相互評価で 4: 90%以上の肯定率 3: 70%以上の肯定率 2: 50%以上の肯定率 1: 50%未満の肯定率	4	夜間のPTA会議や早朝のやまびこキャンペーン等において教職員の時間外勤務状況を毎回記録し、教職員各自の意向に沿った回復措置になるように配慮した。回復措置実施は100%達成できた。年休等を取りやすい職場の雰囲気づくりに努めてきた。		
	勤務状況						

5 学校評価総括(取組の成果と課題)	
・学校評議員より教職員の研修内容(外部講師の活用や年30日間の互見授業)及び各種学力向上対策が基礎学力の定着と向上につながっていると高く評価された。 ・地域貢献を意識した各種体験活動は、地域住民の方より大変好評であった。今後とも生徒に将来を意識させるキャリア教育を充実させていきたい。 ・来年度は、コミュニティ・スクールとして地域住民の方に気軽に学校に来ていただける方策を学校運営協議会と連携して協議していく必要がある。 ・コミュニケーション能力の育成には、学校だけでなく家庭や地域の協力を得ることが必要であり、PTAの取組として検討したいとの建設的な意見がみられた。 ・小中連携については、3部会に分かれて協議することで共通理解を深め、9年間の学習の手引きの作成等の成果につなげることができた。課題としては、教員間の交流を増やすことである。小中学校全教員で実施する授業参観と研究協議の機会を設定していきたい。	

6 次年度への改善策	
・4月より、コミュニティ・スクールとして小中合同学校運営協議会が発足する。小中学校行事の見直しや地域行事との連携を図り、地域と共に進める9年間を見越した小中連携教育を推進していく。 ・中学校は地理的な条件もあり、気軽に訪問しにくい面もあることを考慮し、地域の各種団体との連携を深め、オープンスクール時に招待するなどの取組を実施したい。 ・小規模校のメリットを活かした個別指導を今後も継続し、生徒の学力向上につなげていきたい。 ・各家庭や地域行事での生徒との会話をPTAとして協力して増やしていくことにより、生徒のコミュニケーション能力育成につなげたい。 ・小学校と中学校の全教員がお互いの授業を参観し、協議する機会を年間計画に位置づけて年2回以上は実施していく。	